

□議員名：岩本信子

1 学校・家庭・地域の連携について。

論点	地域協育ネットワークの取り組みはどうか。
回答	学校・家庭・地域が責任と役割を自覚し、相互に連携・協力して社会全体で子ども達の育ちや学びを支援していく教育支援体制を全ての小・中学校で取り組んでいる。支援活動は、学習支援、環境整備、登下校の見守りなど多岐にわたっている。

論点	学校によって取り組みに差があるのではないか。
回答	取り組んで期間もそれほど経っていない。コーディネーターの考え方、力また担当教員の考え方に依存しているので各学校でかなり違う。研修会などで情報の共有をお願いしている。

論点	山口県が行う地域協育ネットとは学校支援本部事業とコミュニティスクール推進事業を一緒にしたものか。
回答	地域協育ネットは学校支援本部事業である。共存・併存はできるので合体したものとして再構成できないか研究している。

論点	各学校のホームページを見ると、この支援事業の掲載をしている学校としていない学校があるがどうか。
回答	ホームページは時間がかかり、担当の先生が多忙を極めるので更新できない。ホームページから学校の活動を判断することは難しい。

論点	地域支援本部事業は地域住民の社会教育の要素があり、情報の共有は学校間の問題ではなく、市民との情報交換がいるのではないか。
回答	ホームページの充実よりも校区の地域の人たちに情報発信が重要で、学校が学校だよりや校長だよりで頻繁に校区に発信している。

論点	情報共有は学校任せにしないで、教育委員会で地域協育ネットのホームページを持って、各学校の情報を発信することはどうか。
回答	考えてみる。

論点	地域協育ネットの成功のカギはコーディネーターであるが、現状は学校任せで、市教委が年3回の研修会及び情報交換をしている。指導者やキーマンを育てる人材養成が必要ではないか。
回答	この度の教育委員は現役のコーディネーターである。学校訪問などの活動を通じて地域協育ネット、地域住民の参画のシステムづくりなど、教育委員会のメッセージを受け止めてほしい。

論点	地域の公民館活動を利用したコーディネーターの役割はどうか。
回答	学校と公民館が一体的になって地域の核となる考えはある。新たな公共の観点から職員の人事的配置も考える。地域づくり、学校づくりに寄与したい。

論点	厚陽地区には地域連携室があるが、他の学校ではどうか。
回答	必要性はあるが、安全管理面で難しい課題があり厚陽以外はない

論点	コミュニティスクールの取り組みについてはどうか。
回答	基本的には地域協育ネットと同じ住民参画による教育支援体制だが、制度で学校運営協議会を設置し地域の方や保護者の意見を反映した学校運営をするが、今している地域教育協議会と実績はあまり変わらない。まずは地域協育ネットを充実させて後共存を目指す。

## 2 学校給食について

論点	教育委員会では修正された学校給食センター建設計画について意見と検討はどうか。
回答	指摘されたことはきっちり行っており、多くの議員の方々の理解が得られなかったようだ。

論点	現学校給食施設の問題点と改善策についてはどうか。
回答	安全性を確保するためにはドライ方式に作り変える必要があり、給食センター建設関連予算の全額が削除されたため悩んでいる。衛生面に支障がないように補修をしていくことしかできない。